

《シンポジウム》

2010年を平和の転機とする日本の役割

2010年には、核兵器廃絶を求める世界世論がかつてなく高まる中で5月3日から核不拡散条約再検討会議が開かれます。また、2010年は日米安全保障条約が改定されて50年を迎え、普天間基地の撤去をめぐる鳩山政権の対応が注目されます。さらに今年は韓国併合100年を迎え、アジアの平和の枠組みづくりにおいて歴史認識が重要になっています。こうした問題を掘下げ、2010年を世界と日本が平和に向かう転機とする具体的行動に活かすために以下のシンポジウムを開催することになりました。多くの方々のご参加をお待ちしています。

開催日時 2010年3月13日（土） 午後1時30分 ～ 5時まで
開催場所 東京都文京区民センター 2階会議室
地下鉄都営三田線 春日 駅下車
主 催 日本科学者会議

報告 1

「オバマ米大統領の善意と欺瞞」
木村 朗 氏 鹿児島大学

報告 2

「日米安保条約50年」
前田 哲男 氏 東京国際大学

コメント 1

「神奈川県米軍基地と『米軍基地撤去全国連絡会』を」
今野 宏 氏 元横浜国立大学

コメント 2

「普天間基地撤去と米軍再編促進法の廃棄」
亀山 統一 氏 琉球大学

報告 3

「韓国併合100年をどうとらえるか」
荒井 信一 氏 元茨城大学

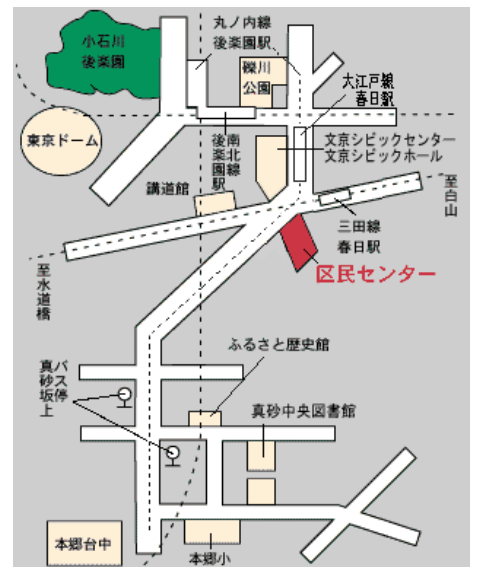
総合討論

なお、翌日の3月14日午後1時から明治大学リバティタワー1階において「九条科学者の会」が発足5周年記念の集いを開催し、一橋大学教授の渡辺治氏が記念講演されることをお伝えします。

会員でなくても、どなたでも参加できます。お問い合わせは下記まで。

日本科学者会議全国事務局

Tel:03-3812-1472 fax:03-3813-2363 E-mail:mail@jsa.gr.jp



主な講演者の紹介

木村 朗 氏（きむらあきら）

1954 年 8 月生まれ。北九州市小倉出身。

鹿児島大学法文学部。長崎平和研究所研究員。平和学・国際関係論専攻。主な研究 テーマは、民族問題や原爆投下・核問題など。インターネット新聞 N P J に時事論評「時代の奔流を見据えて」を連載中。主な著作は、単著、『危機の時代の平和学』、編著『核の時代と東アジアの 平和』（いずれも、法律文化社）、編著『米軍再編と前線基地・日本』『9・11 事件の省察』『メディアは私たちを守るか？』（いずれも凱風社）、他。

前田 哲男 氏（まえだてつお）

東京国際大学、軍事評論家。

長崎放送記者を経て、フリージャーナリストとして各地を取材。1974 年、ジャーナリストとしてマーシャル諸島でビキニ環礁周辺住民の核実験による被爆を取材。アメリカ軍事戦略の批判的論客として活躍。各地で講演会を重ね、非核・平和運動に貢献。主な著書は『非核太平洋被爆太平洋：新編棄民の群島』『戦略爆撃の思想』（現代教養文庫）『国会審議から防衛論を読み解く』『ぼくたちの軍隊』（岩波ジュニア新書）など。

荒井信一（あらい・しんいち）

1926 年東京に生まれる。専攻- 西洋史、国際関係史 現在- 茨城大学・駿河台大学名誉教授、日本の戦争責任資料センター共同代表。主な著書は『歴史和解は可能か』（岩波書店）、『戦争責任論』（岩波現代文庫）、『ゲルニカ物語』（岩波新書）『空爆の歴史- 終わらない大量虐殺』（岩波新書 2008 年）、『原爆投下への道』『第二次世界大戦』（以上、東京大学出版会）、『現代史における戦争責任』『現代史におけるアジア』『世界史における 1930 年代』（以上 共編著、青木書店）、『従軍慰安婦と歴史認識』（共編、新興出版社）『ホロコーストの跡を訪ねる』『中国 歴史と出会う』（以上、草の根出版会）など。